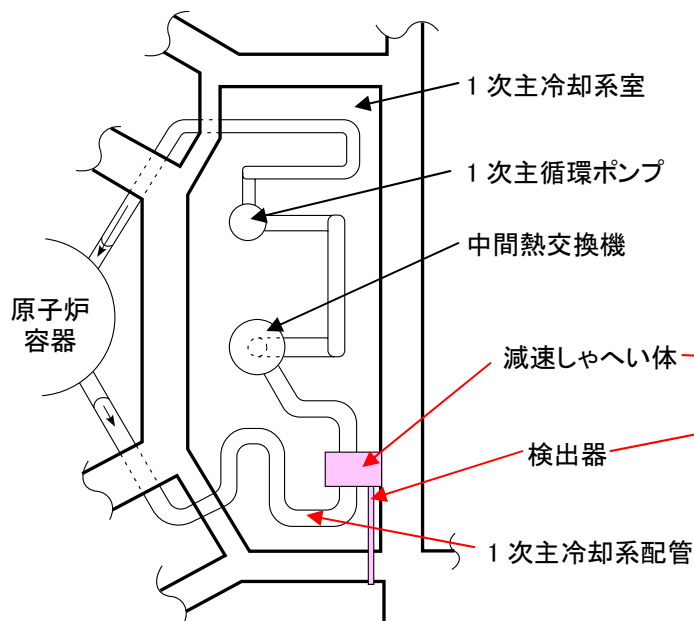


高速増殖原型炉もんじゅ 破損燃料検出装置の耐震裕度向上策

概 要

原子力施設の耐震安全性を一層向上させる目的で、高速増殖原型炉もんじゅの破損燃料検出装置のうち、減速しゃへい体(重量約 15t)の支持機能強化を実施します。本設備は 3 ループある 1 次主冷却系室に 1 台ずつ設置されていることから、計画的に順次実施します。対策実施時期は、平成 19 年 2 月に 1 ループ分(C ループ)、10～12 月に残り 2 ループ分(A、B ループ)を予定しています。



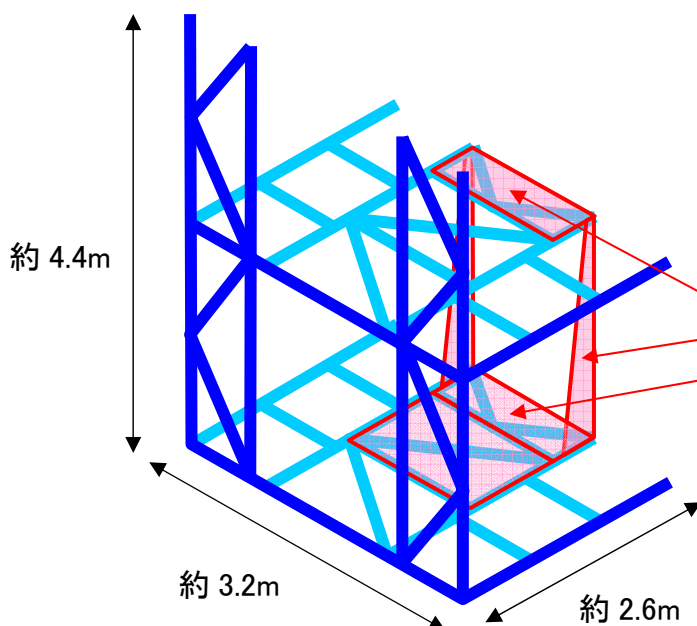
1 次主冷却室を
上から見た図(平面図)



破損燃料検出装置の概略構造(模型)

破損燃料検出装置:

燃料の被覆管が破れた際に 1 次主冷却系配管内へ流入する微量の核分裂生成物質から発せられる中性子を検出し、燃料が破損したことを検知する装置である。本装置は燃料破損時に原子炉を緊急に停止させるための信号を発する設備の一つである。



既設の構造物へ
補強材(9mm 厚の鋼板)を溶接

※ 既設の構造物(左図の青、水色で図示)は、鋼製の角材(70～200mm 角)等で構成された骨組み構造

支持機能強化の概要